

滋賀県農業・水産業基本計画

県民みんなで創る 滋賀の『食』と『農』を通じた『幸せ』を基本理念とし、滋賀の農業・水産業が目指す2030年の姿の実現に向けた施策の展開方向を示します。

目指す2030年の姿としては、「農業・水産業と関わる『人のすそ野』を拡大する」を共通視点として、その上に「経済活動としての農業・水産業の競争力を高める」、「豊かな資源を持つ農山漁村を次世代に引き継ぐ」、「琵琶湖を中心とする環境を守り、リスクに対応する」の、合わせて4つの視点から描きます。

県民みんなで創る
滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」



政策の方向性

共通視点「人」～農業・水産業と関わる「人のすそ野」を拡大する～

- 人・1 新規就農者・新規漁業就業者等を確保する
- 人・2 滋賀の農業・水産業のファンを拡大する
- 人・3 県産農畜水産物を積極的に取り扱う食品関連事業者を増やす
- 人・4 農業・水産業の持つ多面的機能を活かした共生社会をつくる

視点「経済」～経済活動としての農業・水産業の競争力を高める～

- 経済・1 農業・水産業がより魅力ある職業になる
- 経済・2 需要の変化への確かな対応と新たな需要の開拓や販路拡大に向け、農地・農業技術等をフル活用する
- 経済・3 近江牛をはじめとした畜産物を持続可能な形で安定生産する
- 経済・4 儲かる漁業を実現し、琵琶湖漁業を継続する
- 経済・5 近江米、近江牛、近江の野菜、近江の茶、湖魚等の「滋賀の幸」のブランド力を高め、消費を拡大する

視点「社会」～豊かな資源を持つ農山漁村を次世代に引き継ぐ～

- 社会・1 農業水利施設や農地等の農業生産における基礎的な資源を次世代に引き継ぐ
- 社会・2 集落の力と多様な主体との連携・協働により農山漁村の持つ多面的価値を次世代に引き継ぐ

視点「環境」～琵琶湖を中心とする環境を守り、リスクに対応する～

- 環境・1 農業の営みと琵琶湖を中心とする環境の保全を両立する
- 環境・2 琵琶湖を中心とする環境の保全再生を進め、健全な循環のもと水産資源を回復させる
- 環境・2 気候変動による自然災害等のリスクに対応する

農業農村整備事業の取組例

人

- ・リモートワーカー等の新たな働き方をする人材の農業での活用推進
- ・農泊等の体験型・滞在型ツアーの実施を通じた都市と農村の交流機会の拡大
- ・棚田の魅力発信等による棚田ボランティアの参加者を増やす取組に対する支援
- ・企業や大学、NPO等の多様な主体との連携・協働による地域資源を活用した農村地域の活性化

経済

- ・ほ場整備等による農地の集積・集約化の推進
- ・農地のフル活用に資するための農業水利施設の整備・更新や農地の基盤整備
- ・魚のゆりかご水田米の販路拡大

社会

- ・農業水利施設や農地等の整備
- ・安心して住み続けられる農山漁村の整備
- ・集落の話し合いに基づく将来ビジョンの策定や体制整備

環境

- ・豊かな生きものを育む水田の普及拡大
- ・農業排水の循環利用への取組に対する支援
- ・水質浄化施設整備の推進
- ・農業水利施設を活用した再生可能エネルギーの推進
- ・ため池耐震化などによる防災減災対策



共通視点「人」
農業・水産業と関わる「人のすそ野」を拡大する

「目指す2030年の姿」のイメージ